

何かに夢中って
素晴らしい!!

シャカリキ

瓦版

VOL.3

2013年6月

【シャカリキ】[名][形動]夢中になって何かに取り組むこと。お釈迦様が人々の幸せのために力の限りを尽くしたことから、このような姿を「お釈迦様の力=釈迦力」というようになりました。



妙見山法得寺

〒546-0012 大阪市東住吉区中野4-5-26
Tel.06-6702-7373 Fax.06-6700-6002
e-mail: info@houtokuji.net

永代供養専用ダイヤル

Tel.06-4302-4194 (よくよう)

ホームページ

<http://www.houtokuji.net>

雨ニモマケズ (口語文にて紹介します)

雨にも負けず
風にも負けず
雪にも夏の暑さにも負けぬ
丈夫なからだをもち
慾はなく
決して怒らず
いつも静かに笑っている
一日に玄米四合と
味噌と少しの野菜を食べ
あらゆることを
自分を勘定に入れずに
よく見聞きし分かり
そして忘れず
野原の松の林の陰の
小さな萱ぶきの小屋にいて
東に病気の子供あれば
行って看病してやり
西に疲れた母あれば
行ってその稲の束を負い
南に死にそうな人あれば
行ってこわがらなくてもいいといい
北に喧嘩や訴訟があれば
つまらないからやめるといい
日照りの時は涙を流し
寒さの夏はおろおろ歩き
みんなにでくのぼーと
呼ばれ
褒められもせず
苦にもされず
そういうものに
私はなりたい

宮沢賢治

【写真】
ウィキペディアより
(Wikipedia)



宮沢賢治と六波羅蜜

小学校の教科書で学んだ宮沢賢治の「雨ニモマケズ…」は、皆さんの心に今も刻まれていると思います。

私たちは、日々一生懸命生きること、これ修行なりとお上人様からご指導いただいています。

毎日の生活の中で、私たち自身が「六波羅蜜」(ろくはらみつ)の六つの波羅蜜行を行っている意識はないことでしょう。しかし、知らずのうちに積み上げられています。

日々の生活の中で六波羅蜜行を実践することは、「雨ニモマケズ」に書かれている生き方に相通じるものがあります。

賢治の没後から、今年で80年。現在においても同じような生き方が出来るとは思いませんが、その詩の心は現代人にも通じます。

六波羅蜜の修行を、日々の生活の中で自然体で実践できるような



自分があるなら、私は幸せなんだと、賢治が語りかけているようにも響きます。

最後に、「ソウイウモノニ私ハナリタイ」と締めくくられている詩の、知られざる続きを…。

賢治の没後に鞆の中から見つかった「雨ニモマケズ」が収録されている手帳には、この詩の最後の言葉である「私ハナリタイ」に続いて、南無無辺行菩薩、南無上行菩薩、南無多宝如来、南無妙法蓮華経、南無釈迦牟尼佛、南無浄行菩薩、南無安立行菩薩と書き込まれています。南無妙法蓮華経はページの中央にひときわ大きく書かれています。

彼の作品の中には、仏教的な生命論や人生観が潜んでいます。



身延山久遠寺にある宮沢賢治の歌碑